

Z-3: 賛助会員セッション

クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社

開催日時・会場 9月3日(火曜日) 15:50-17:20 B201(2階)

「科学立国の危機 失速する日本の研究力」に基づく データ分析のあり方

科学技術政策および大学・研究機関運営においては戦略的な意思決定やそれに向けたエビデンスの活用が重視されており、論文データはエビデンスとして最も広く利用されています。一方で、論文データは分析の前提条件や分析の切り口等によって解釈が大きく異なる事があり、論文データの過度な単純化やミスリードの可能性も指摘されています。論文分析や論文指標とどのように付き合うべきか？ランキング、政府による評価指標、自機関の成果モニタリング、資源配分などの目的や用途に応じて、どのような分析をすればより正しく公正な示唆を得られるのか？など、論文データ分析にまつわる課題はつきません。経営層や政策立案者への情報発信のあり方も重要な視点のひとつとなるでしょう。

本セッションでは、2019年2月に「科学立国の危機 失速する日本の研究力」を上梓された元三重大学学長、現鈴鹿医療科学大学学長の豊田 長康先生をお招きし、データ分析のあり方、そして様々な切り口の分析から“日本の研究力の今”を、指標の意味や根拠と共にご説明いただきます。特に論文の量・質の両面に大きく関係するFTE(Full-time equivalent研究従事者数)や人口あたりの論文数による分析からは、日本の論文数が世界諸国に比べて大きく低迷している現状とその理由が読み解かれます。さらに先生ご自身の分析を総括した科学技術立国再生のための設計図についてもご紹介いただきます。

オーガナイザー



中村 優文:クラリベイト・アナリティクス
Web of Science事業部 部長

講演者



豊田 長康: 鈴鹿医療科学大学 学長

1950年、三重県亀山市生まれ 1976年、大阪大学医学部卒 1978年、三重大学産科婦人科助手 1984-86年、米国バンダービルト大学医学部分子生理学研究員 1989年、三重大学医学部産科婦人科講師 1991年、同教授 2004年、三重大学学長 2009年、鈴鹿医療科学大学副学長 2010年、(独)国立大学財務・経営センター理事長 2013年、鈴鹿医療科学大学学長、現在に至る。